

榛名神社社報

発行日 平成八年七月十五日
 発行所 沼田市榛名町八五二
 電話三三三 四五一二
 発行人 金子浩隆



榛名神社由緒

榛名神社は、沼田・利根発祥の地に鎮座し、一座の神が祭られてゐる。

日本武尊命
 菅原道真命
 三柱

日本武尊は上野国名都利根郡の部に従一位左高命として流刑の栗原に鎮座せられ、菅原道真命は従二位権臣明神として根岸（現在の社地）に祀られていた。

そして埴山姫命は享祿二年（一五三〇）に沼田万葉系齋宮城から内城に移る時、そこに祀られていた至高明神神城の西下の確根明神の社に遷し、頭奏の妻の産土神として榛名権現（埴山姫命）を勧請して、神を二社に祀り神社の名前を「榛名神社」と稱した。

諏訪大神は神社の西の諏訪神社を明治四十一年に当社した。

当社は沼田氏、真田氏、本多氏、黒田氏そして土岐氏と代々城主の尊崇を受け、特に本殿は元和元年真田伊豆守信幸公の奉遷であり、木造大鳥居は老中本多白守正永公の奉獻である。

明治六年郷社に列し、昭和三三年県社に昇格したのであるが、昭和十二年に社格廃止以来は宗教法人となり利根沼田の総鎮守と称せられている。

社頭講話

名譽宮司 金子安平

天下取り

NHK 日曜の番組「秀吉」を見て色々事を考えます。氏子の皆様もきっと「秀吉」を楽しくご覧になってると思います。

秀吉公の天下取りに就て面白いお話があります。その翌年鎌倉の關八幡宮に詣って秀吉は本社に降参して、大願願公の像の前で、天下を取ったのはあなた一人だけだ、だから、あなたには名門の出、私は尾張の百姓の出、だから私が勝つ、と思われたいです。しかしお互いに天下を取ったのだから二人は友だちですね。

昔々、その「秀吉」を演じて下さった竹中直人さんです。その竹中さんが「秀吉」をやる気構えについて語っています。

今迄多くの秀吉がありました。しかし私は新しい秀吉をやる。朝朝の朝を叩く秀吉です。それです。秀吉が、何人か人に触れる。触れたらすぐに話して。秀吉も気がならない、そのくせ馬鹿かいてるのを列で、竹中直人くんは八幡宮の石段を登る格好で僕等の進歩も多そうですね。失敗り俤いと思われたい。きつと天下取りも夢でないと思われたい。

榛名の森は緑濃い森です

緑のある処人類的の場所です。涼い風・香く・香く木の色・その種葉の音色、これが榛名の森です。この森は昔々より御先祖さまからの賜物です。昔の人達が真心で育ててくれた自然オアシスです。勿論、われわれの維持管理は忘れてはならない責務ですね。緑の森をかまします。さて新世紀に向けて、二十一世紀が来ます。さて新しい科学・新しい文化の生活、とて私達には想像も出来ません。

しかし、神仏が作った下さった。大私等の地球です。この地球は私等の宝物。これを大切に守り、それである気があります。限りなくとも、恐くない。神様と一緒に、仏さまと道連れ。この古く而も新しい考えが最も大切ですね。皆さん、忙しん中でののお参り、心があがらして居ります。

神社本庁設立五十周年記念式典

去る五月二十日、東京・日本武道館に於て、神社本庁設立五十周年の記念式典が、當総鎮守御徳（即徳）様、本庁の全国神職、氏子総代神社関係者共集り、盛大に挙行されました。

この記念式典に際し、元神社本庁副総長であり、現在神社本庁本長である当金子安平名譽宮司が、神社本庁設立以来の役員として、その功績を表彰されました。

記念式典につづき第一節は赤井英和、C.W.P. 平岩弓枝、佐伯彰一の四氏より「明日の日本を築く」と題し、フセサジが主役の第三節は「日本のごころ」と題し、歌手さだまさし氏の記念コンサートが催されました。

平成八年 祭事 歴

一月一日 歳旦祭
 朝八時、新しい年の祈し日を祝し、朝日の豊実登に、年の健康と幸福を祈願する。

二月一日 月次祭
 二月一日、大利形、里の繁栄、氏子の健康とを祈願する。

二月十二日 紀元祭
 二月十二日、紀元祭

三月一日 月次祭
 三月一日、月次祭

四月一日 月次祭
 四月一日、月次祭

御正月山姫命御祭の物語、鎮座より、この日が社と定められ、神により一番大いなる御祭であること、大いなる御祭、氏子の繁栄と世界平和が祈願される。また、神樂の奉納も行なわれる。

五月一日 月次祭
 五月一日、月次祭

六月一日 月次祭
 六月一日、月次祭

六月三日 六月三載（夏越祭説）
 六月三日は一年の時期である。舟走大般若は、一年すべてを、船を載せて行くの御祭である。宮司とともに参列者も大般若舟をのべた後、紙の人形を使い体の中の罪、穢れを払い取り、ワラでできたツッココに入れ、川に流し去る。

七月一日 月次祭
 七月一日、月次祭

八月一日 月次祭
 八月一日、月次祭

八月三・四・五日 恒例大祭
 「きよん」の名で親しまれている恒例祭は、京都の八坂神社の牛頭大上の祭から起る。つたものである。沼田では徳川時代に恒例祭（當時は牛頭大上）の祭典である。現在では沼田恒例祭の祭典の為に、榛名神社との合同の祭典となり、祭の日に合わせ、また北東第一の祭典は、御徳様におたのじな祭りと、氏子地域を巡幸され、四日恒例は、御徳様に恒例大祭が執り行われる。



九月一日 月次祭 風祭
 恒例は地元地元の組合の主催により九月月次祭と合わせ執り行なわれる。

地元の大きな本に天狗おぼん、てんを掲げ風の神、津の命を祀る。秋の収穫を迎え、荒き風、悪しき水の害を受けたい。九月一日恒例祭。

九月六日（旧七月十四日） 諏訪祭
 明治に祀られた諏訪大神のお祭、沼田全体がお諏訪様の御祭に参り、この祭は沼田、沼田のお祭である。大正末期までには榛名町と御寺にてお諏訪様をまつた。大正十四年、二月一日に御祭神の御徳に因り、必ず三月以上の雨が降ると言われている。

この祭は二日が宵祭、二十五日が本祭であるが、二十五日には、参詣には外出しただけが参詣を償われない、二日の方こそその家にカケ見舞をすることになって、二日の方こそ、

12ヶ町の代表が特を着用して祭典に参社